

# ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式ファンド

Aコース（資産成長型・為替ヘッジあり）

Bコース（資産成長型・為替ヘッジなし）

Cコース（分配重視型・為替ヘッジあり）

Dコース（分配重視型・為替ヘッジなし）

追加型投信／内外／株式

gfg.troweprice.com

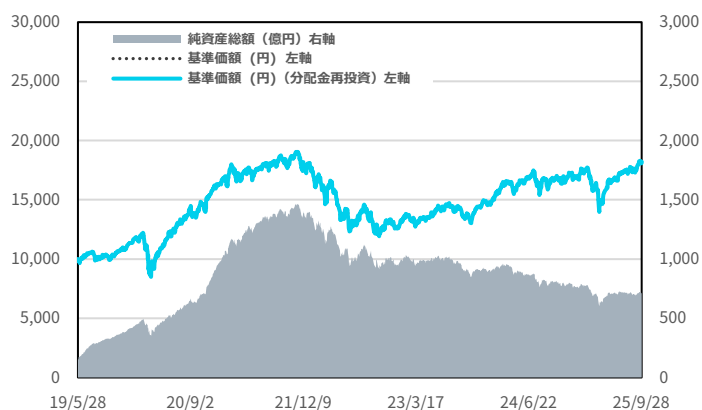


当ファンドの  
特設サイトは  
こちらから

「ティー・ロウ・プライス」の  
Webサイトへ移動します

## ■Aコース（資産成長型・為替ヘッジあり）

### 運用実績の推移



基準価額	18,205円	設定日	2019年5月28日
純資産総額	715.2億円	信託期間	原則として無期限
決算日	毎年、3月、9月の各15日(休業日の場合は翌営業日)		

### 騰落率 (%)

期間	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	3.21	5.37	15.16	8.55	49.69	82.05

### 分配金実績（1万口当たり、税引き前）

	第9期 '23/9/15	第10期 '24/3/15	第11期 '24/9/17	第12期 '25/3/17	第13期 '25/9/16	累計
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円

※基準価額は1万口当たりとなっています。

※基準価額および基準価額（分配金再投資）は信託報酬（後記の「ファンドの費用」参照）控除後のものです。

※基準価額（分配金再投資）および騰落率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。

※運用実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。

運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

## ■Bコース（資産成長型・為替ヘッジなし）

### 運用実績の推移



基準価額	29,582円	設定日	2019年5月28日
純資産総額	2,988.9億円	信託期間	原則として無期限
決算日	毎年、3月、9月の各15日(休業日の場合は翌営業日)		

### 騰落率 (%)

期間	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	4.77	8.73	18.18	17.51	82.92	195.82

### 分配金実績（1万口当たり、税引き前）

	第9期 '23/9/15	第10期 '24/3/15	第11期 '24/9/17	第12期 '25/3/17	第13期 '25/9/16	累計
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円

※基準価額は1万口当たりとなっています。

※基準価額および基準価額（分配金再投資）は信託報酬（後記の「ファンドの費用」参照）控除後のものです。

※基準価額（分配金再投資）および騰落率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。

※運用実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。

運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

巻末の「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずお読みください。

# ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式ファンド

Aコース（資産成長型・為替ヘッジあり）／Bコース（資産成長型・為替ヘッジなし）

Cコース（分配重視型・為替ヘッジあり）／Dコース（分配重視型・為替ヘッジなし）

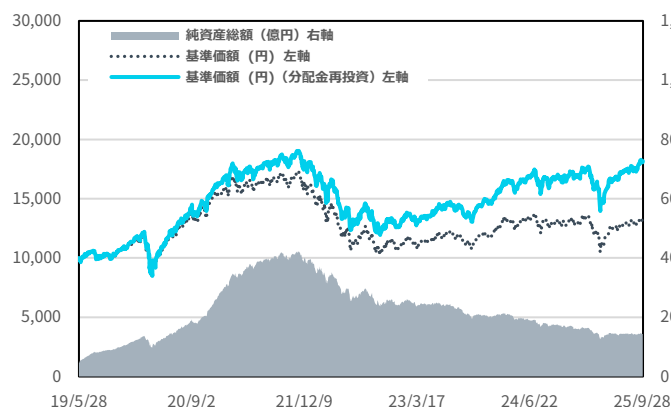
追加型投信／内外／株式



## ■Cコース（分配重視型・為替ヘッジあり）

基準価額	13,274円	設定日	2019年5月28日
純資産総額	143.9億円	信託期間	原則として無期限
決算日	毎年、3月、6月、9月、12月の各15日（休業日の場合は翌営業日）		

### 運用実績の推移



### 騰落率（％）

期間	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	3.22	5.40	15.09	8.37	49.39	81.84

### 分配金実績（1万口当たり、税引き前）

	第2 1期 '24/9/17	第2 2期 '24/12/16	第2 3期 '25/3/17	第2 4期 '25/6/16	第2 5期 '25/9/16	累計
分配金	190円	200円	180円	190円	200円	4,140円

※基準価額は1万口当たりとなっています。

※基準価額および基準価額（分配金再投資）は信託報酬（後記の「ファンドの費用」参照）控除後のものです。

※基準価額（分配金再投資）および騰落率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。

※運用実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

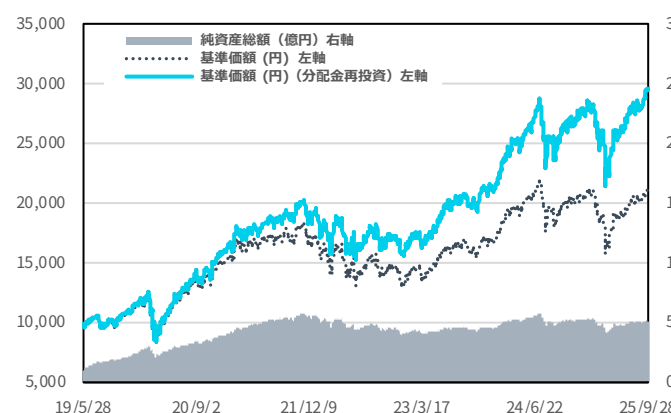
※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。

運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

## ■Dコース（分配重視型・為替ヘッジなし）

基準価額	21,019円	設定日	2019年5月28日
純資産総額	516.9億円	信託期間	原則として無期限
決算日	毎年、3月、6月、9月、12月の各15日（休業日の場合は翌営業日）		

### 運用実績の推移



### 騰落率（％）

期間	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	4.76	8.71	18.13	17.50	82.82	195.50

### 分配金実績（1万口当たり、税引き前）

	第2 1期 '24/9/17	第2 2期 '24/12/16	第2 3期 '25/3/17	第2 4期 '25/6/16	第2 5期 '25/9/16	累計
分配金	280円	310円	280円	290円	310円	5,580円

※基準価額は1万口当たりとなっています。

※基準価額および基準価額（分配金再投資）は信託報酬（後記の「ファンドの費用」参照）控除後のものです。

※基準価額（分配金再投資）および騰落率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。

※運用実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。


運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

巻末の「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずお読みください。

# ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式ファンド

Aコース（資産成長型・為替ヘッジあり）／Bコース（資産成長型・為替ヘッジなし）  
Cコース（分配重視型・為替ヘッジあり）／Dコース（分配重視型・為替ヘッジなし）  
追加型投信／内外／株式



ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式マザーファンドの状況

■資産配分		■国・地域別配分(上位10カ国)		■セクター配分	
株式等	98.21%	国・地域	構成比	セクター	構成比
現金他	1.79%	米国	59.44%	情報技術	40.09%
合計	100.00%	英国	6.35%	金融	17.82%
		台湾	5.71%	コミュニケーション・サービス	11.78%
		日本	4.12%	資本財・サービス	8.85%
		オランダ	4.03%	一般消費財・サービス	8.85%
		中国	2.87%	ヘルスケア	3.58%
		インド	2.49%	生活必需品	3.05%
		カナダ	2.34%	公益事業	1.58%
		ドイツ	2.29%	エネルギー	1.42%
		韓国	1.98%	素材	1.19%
		その他8カ国計	6.60%	不動産	0.00%
		現金他	1.79%	現金他	1.79%
		合計（18カ国）	100.00%	合計	100.00%

※構成比はすべてマザーファンドの対純資産総額の比率です。  
※セクター配分は、世界産業分類基準（GICS）の分類にて区分しています。ティー・ロウ・プライスは、将来の報告についてGICSの更新があればそれに従います。GICSの情報は巻末の「当資料のご利用にあたっての注意事項」をご確認ください。  
※現金他には、キャッシュのほか未収・未払金等を含んでおり、マイナスとなる場合もあります。

■組入上位10銘柄					（組入銘柄数：94銘柄）
	銘柄名	セクター	通貨	国・地域	構成比
1	エヌビディア	情報技術	米ドル	米国	6.09%
2	マイクロソフト	情報技術	米ドル	米国	4.49%
3	アップル	情報技術	米ドル	米国	3.41%
4	アルファベット	コミュニケーション・サービス	米ドル	米国	3.14%
5	ユニリーバ	生活必需品	英ポンド	英国	3.05%
6	台湾セミコンダクター	情報技術	台湾ドル	台湾	2.66%
7	アマゾン・ドット・コム	一般消費財・サービス	米ドル	米国	2.56%
8	メタ・プラットフォームズ	コミュニケーション・サービス	米ドル	米国	2.40%
9	ブロードコム	情報技術	米ドル	米国	2.09%
10	テンセント・ホールディングス	コミュニケーション・サービス	香港ドル	中国	2.03%
				合計	31.92%

※構成比はすべてマザーファンドの対純資産総額の比率です。  
※セクター配分は、世界産業分類基準（GICS）の分類にて区分しています。ティー・ロウ・プライスは、将来の報告についてGICSの更新があればそれに従います。GICSの情報は巻末の「当資料のご利用にあたっての注意事項」をご確認ください。  
※当該銘柄の売買を推奨するものではありません。

投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

巻末の「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずお読みください。



## ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式ファンド

Aコース（資産成長型・為替ヘッジあり）／Bコース（資産成長型・為替ヘッジなし）  
Cコース（分配重視型・為替ヘッジあり）／Dコース（分配重視型・為替ヘッジなし）  
追加型投信／内外／株式



## 運用担当者のコメント

## ■市場概況

9月のグローバル株式市場（※）は5カ月続伸して月中に過去最高値を更新しました。

米国株式市場は堅調に推移しました。米連邦準備制度理事会（FRB）は、月央に開催した連邦公開市場委員会（FOMC）で、2024年12月以来となる0.25%の利下げを決定しました。会合後の記者会見で、パウエルFRB議長は追加利下げに引き続き慎重な姿勢を示しましたが、声明とともに発表されたFOMCメンバーの今後の政策金利予想（いわゆる「ドット・プロット」）で、多くのメンバーが年内にさらに2回の0.25%利下げを見込んでいることが好感され、株式市場は月末まで堅調さを維持しました。その他先進国株式市場は米国ほどではなかったものの概ね上昇したほか、新興国（EM）株式市場は、アジアのテクノロジー銘柄や中南米の資源銘柄がけん引して、先進国を上回る上昇となりました。

グロース／バリューのスタイル別では、前月から一転してグロース株優位の展開となり、業種（世界産業分類基準に基づく11セクター）別騰落率では、情報技術やコミュニケーション・サービス、一般消費財・サービスの上昇が目立った一方、生活必需品やエネルギー、不動産などが下位となりました。

（※）MSCI オール・カンントリー・ワールド・インデックス（税引き前配当込み、現地通貨ベース）

## ■運用概況

9月のファンドの騰落率（分配金再投資）は、Aコースは+3.21%、Bコースは+4.77%、Cコースは+3.22%、Dコースは+4.76%でした。外国通貨高・円安が、為替ヘッジなしのBおよびDコースのリターンの押し上げ要因となりました。

人工知能（AI）に関連した業績拡大への期待を背景にテクノロジー銘柄の株価が相場をけん引する中、当ファンドでも、AIで利用される先端半導体を開発するエスビディアや膨大なデータ処理に不可欠な高帯域幅メモリ（HBM）の生産で世界トップのSKハイニックス、それら高機能半導体を受託生産する台湾セミコンダクター、検索エンジンの「グーグル」の親会社で、企業がAIを稼働させるクラウドのサービスなども提供するアルファベットなどの関連銘柄が上位プラス寄与となりました。当月発売を開始したiPhone17の売れ行きへの期待から株価が上昇したアップルの組み入れもプラス要因でした。

一方で、半導体の電子設計自動化（EDA）ソフトウェアを開発するシノプシスは、当月発表した5-7月期決算が市場予想を下回り、株価が下落して組み入れがマイナスに寄与しました。設計済みの半導体の回路ブロックなどを「知的財産（IP）」として顧客に開示し、ライセンス料や顧客の製品出荷に応じたロイヤリティなどを徴収する事業が不振でした。

## ■今後の見通し

グローバル株式市場は、2008年の「リーマン・ショック」以降、2010年代を通じて続いた「デフレ傾向と低い長期金利」の時代から、「コロナ禍とその後の需要急回復期」を経て、今後はまた、大きく異なる環境への適応が求められるだろうとみています。今後当面は、①これまでよりもはるかに高水準のインフレを許容する中央銀行、②政治的対立の高まりも背景に大盤振る舞いを続ける政府など、金融・財政両面で緩和的政策が続く見込みです。それにより、景気や投資家のリスク選好が下支えされるため、短期的には株式市場のプラス材料といえますが、長期的にはインフレが高止まりし、政府債務が増加し、長期金利が上昇して、株式市場の不安定さが増す可能性があります。

投資先についても、独自の収益成長性と価格決定力を有する真の「A格」企業以外はアウトパフォームが期待できない環境に備える必要があり、長期的な成長や設備投資、バランスシートといった従来の分析よりも、「将来の潜在的な高成長企業を収益性の転換点で見極める」ことが重要になるとみています。そうした中、ポートフォリオでは、力強い構造的成長を続ける数少ない分野としてAIに依然として注目しています。

今後も、あらゆる成長機会を追求し、広範な投資対象から、規律あるファンダメンタルズ分析に基づくボトムアップ・アプローチによって「変化の正しい側」にあると確信できる企業を特定するとともに、「収益の改善」、「ハイクオリティ」、「バリュエーション」という3つの観点で投資対象の厳選に注力します。

投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

巻末の「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずお読みください。

# ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式ファンド

Aコース（資産成長型・為替ヘッジあり）／Bコース（資産成長型・為替ヘッジなし）  
Cコース（分配重視型・為替ヘッジあり）／Dコース（分配重視型・為替ヘッジなし）  
追加型投信／内外／株式



## ファンドの特色

1

ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）への投資を通じて、世界各国の株式（エマージング・マーケット\*も含みます。）の中で、成長性が高いと判断される企業の株式を中心に投資を行います。

※ エマージング・マーケットとは、経済の発展段階にある国や地域の市場を指し、新興国市場とも呼ばれます。

2

銘柄選択に関しては、個別企業分析に基づく「ボトム・アップ・アプローチ\*1」を重視した運用を行います。個別企業分析にあたっては、ティー・ロウ・プライス\*2のアナリストによる独自の企業調査情報を活用します。

\*1 ボトム・アップ・アプローチとは、アナリストの個別企業に対する調査や分析等に基づきその企業の投資価値を判断し、個別銘柄を選択する運用手法です。

\*2 委託会社およびその関連会社をいいます。

3

Aコース／Cコースは、実質外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジ（主要国通貨による代替ヘッジを含みます。）を行い、為替変動リスクの低減を図ります。

Bコース／Dコースは、実質外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

4

決算頻度と為替ヘッジの有無の異なる4つのコースからお選びいただけます。

※市場動向、資金動向、信託財産の規模等により、上記1～3のような運用ができない場合があります。

※上記は当ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色を含みます。

※販売会社によっては、いずれかのコースのみ取扱う場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。当ファンドが有する主なリスク（ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドが有するリスクを含みます。）は以下の通りです。

#### 株価変動リスク

当ファンドは、世界の株式を主要な投資対象としますので、その基準価額は、株式（米国預託証券（ADR）、欧州預託証券（EDR）、グローバル預託証券（GDR）等を含みます。）の値動きにより、大きく変動することがあります。株価は、発行企業の業績、市場での需給関係、政治・経済・社会情勢等の影響を受けて、ときには大きく変動します。発行企業が経営不安や倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。また、当ファンドは中小型株に投資することがありますが、時価総額が小さい企業の株式は、大規模企業の株式よりも価格の変動が大きくなる場合があります。

#### 為替変動リスク

AコースおよびCコースは、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、主要国通貨を用いた代替ヘッジを行う場合がありますが、通貨間の値動きが異なるため、十分な為替ヘッジ効果が得られないことがあります。また、為替ヘッジを行う際は、通貨間の金利差相当分のヘッジコストがかかる場合があり、ファンドの基準価額に影響します。BコースおよびDコースは、原則として対円での為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接受けます。したがって、為替相場が円高方向に進んだ場合は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、為替相場は大きく変動する場合があります。

#### エマージング・マーケット・リスク

当ファンドは、エマージング・マーケット（新興国市場）の株式も投資対象としています。エマージング・マーケットは先進国と比較して市場が成熟していないため、流動性が低く、価格の変動性も大きいことから、価格変動リスクが高くなる傾向にあります。また新興国は先進国と比較すると政情が不安定な国や地域が多く、投資対象国・地域における政治体制の変更、法令の変更、経済情勢の変化等の影響が市場におよぶリスクが高くなります。これらのリスクにより、基準価額が下落したり、運用方針に沿った運用が困難となる場合があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。


投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

巻末の「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずお読みください。



# ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式ファンド

Aコース（資産成長型・為替ヘッジあり）／Bコース（資産成長型・為替ヘッジなし）  
Cコース（分配重視型・為替ヘッジあり）／Dコース（分配重視型・為替ヘッジなし）  
追加型投信／内外／株式



お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。	その他	信託期間	原則として無期限(設定日:2019年5月28日)
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。		繰上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)することがあります。 ・各ファンドについて受益権口数が50億口を下回ることとなった場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認める場合 ・信託契約を解約することに正当な理由がある場合
	購入代金	販売会社の定める期日までにお支払いください。		決算日	資産成長型:毎年3月、9月の各15日(休業日の場合は翌営業日) 分配重視型:毎年3月、6月、9月、12月の各15日(休業日の場合は翌営業日)
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。		収益分配	資産成長型:年2回の決算時に、分配方針に基づいて分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 ※販売会社によっては、分配金の再投資が可能です。 分配重視型:年4回の決算時に、分配方針に基づいて分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 ※販売会社によっては、分配金の再投資が可能です。
	換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお申込みの販売会社でお支払いします。		信託金の限度額	各ファンドについて1兆円を上限とします。
申込について	申込締切時間	原則として、午後3時30分までに販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。 ※販売会社によっては上記と異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。		公告	公告を行う場合は日本経済新聞に掲載します。
	換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、1日1件10億円を超える換金はできません。 また、委託会社の判断により、別途制限を設ける場合があります。		運用報告書	毎年3月、9月の決算時および償還時に、期中の運用経過などを記載した交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に対して提供・交付します。
	購入・換金申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行の休業日には、お申込みの受付は行いません。 ※スイッチングのお申込みの場合も同様です。		スイッチング	販売会社によっては、各ファンド間にてスイッチングが可能です。スイッチングの際には、通常の換金時と同様に税金がかかります。 ※スイッチングのお取扱いに関しては、販売会社へお問い合わせください。
	購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。 ※スイッチングのお申込みの場合も同様です。 なお、主要投資対象市場の規模・流動性等を勘案し、購入のお申込みの受付を制限することがあります。		課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。一定の要件を満たした公募株式投資信託は、税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」の適用対象となります。 当ファンドはNISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用はありません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
購入時手数料	購入価額に <b>3.3%(税抜3.0%)</b> を上限として、販売会社が独自に定める率を乗じて得た額です。	運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に対し、 <b>年1.683%(税抜1.53%)</b> の率を乗じた額が運用管理費用(信託報酬)として毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。
		その他の費用・手数料	信託事務の諸費用等 法定書類等の作成等に要する費用(有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷、交付および提出にかかる費用)、監査費用、計理業務およびこれに付随する業務にかかる費用等は、ファンドの純資産総額に対して年率0.11%(税抜0.1%)を上限とする額が毎日計上され、毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。
信託財産留保額	ありません。		売買委託手数料等 組入る有価証券の売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用等が、信託財産から支払われます。 ※運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。

※上記の手数料・費用等の合計額等については、投資者のみなさまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。  
※販売会社によっては、いずれかのコースのみ取扱う場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

巻末の「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずお読みください。

# ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式ファンド

Aコース（資産成長型・為替ヘッジあり）／Bコース（資産成長型・為替ヘッジなし）  
Cコース（分配重視型・為替ヘッジあり）／Dコース（分配重視型・為替ヘッジなし）  
追加型投信／内外／株式



## 収益分配金に関する留意点

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかさった場合も同様です。

## 当資料のご利用にあたっての注意事項

当資料は、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が作成したお客さま用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

投資信託は、値動きのある有価証券等を対象としているため、投資元本を割り込み損失が生じることがあります。ご購入の際は販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）を必ずお受け取りのうえ、内容をよく読み、ご自身でご判断ください。

投資信託は、預金または保険契約ではないため、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。また、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。

ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

個別銘柄につき、売買を推奨するものではありません。

当資料内で表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。

当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性あるいは完全性について保証するものではありません。

当資料における見解等は資料作成時点のものであり、将来事前の通知なしに変更されることがあります。

世界産業分類基準（「GICS」）は、モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル（「MSCI」）およびマグローヒル・カンパニーズ傘下のスタンダード・アンド・プアーズ（「S&P」）が開発した独占的財産およびサービスマークであり、ティー・ロウ・プライスにライセンス供与されています。MSCI、S&PまたはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関与する第三者はいずれも、当該基準や分類（またはその利用から得られた結果）について明示的にも暗示的にもいかなる保証や表明もしません。また、すべての関係当事者は、当該基準や分類のいずれについても、その独創性、正確性、網羅性、商品性または特定の目的適合性について、いかなる保証からも明示的に免責されます。前述の内容を制限することなく、MSCI、S&P、その関連会社またはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関与する第三者はいずれの場合も、直接的、間接的、特別、懲罰的、結果的またはその他のいかなる損害（逸失利益を含む）について、その発生可能性が通知されていたとしても、いかなる責任も負いません。

## 委託会社、その他関係法人

【販売会社一覧】お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください。

商号等			加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第142号	○	○	○	○
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第649号	○	○	○	

※三井住友信託銀行株式会社は、Bコースのみのお取扱いです。

受託会社：野村信託銀行株式会社

委託会社：



T.RowePrice

ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3043号

加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会

一般社団法人投資信託協会

一般社団法人第二種金融商品取引業協会